



## APPENDIX **A**

# Catalyst 2955 アラーム コマンド

---

この付録では、Catalyst 2955 スイッチにおけるスイッチの状態をモニタするためのコマンドについて説明します。これらのコマンドは Catalyst 2950 スイッチではサポートされません。



(注)

---

コマンドの使用方法的詳細については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーション ガイドの「Configuring Catalyst 2955 Switch Alarms」の章を参照してください。

---

# alarm facility fcs-hysteresis

フレーム チェック シーケンス (FCS) エラー ヒステリシスしきい値を FCS ビットエラー レートから変動率として設定するには、**alarm facility fcs-hysteresis** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。FCS エラー ヒステリシスしきい値をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**alarm facility fcs-hysteresis percentage**

**no alarm facility fcs-hysteresis percentage**

## 構文の説明

**percentage** ヒステリシスしきい値の変動率です。指定できる範囲は 1 ~ 10% です。

## デフォルト

デフォルトのしきい値は 10% です。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ヒステリシスしきい値を設定することで、FCS ビット エラー レートが指定されたビット エラー レート付近を不規則に変動している場合に、アラームの発生を防ぐことができます。

FCS ヒステリシスしきい値をスイッチ上のすべてのポートに設定する場合、**fcs-threshold** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、各ポートに FCS エラー レートを設定します。しきい値がデフォルト値ではない場合、**show running-config** 特権 EXEC コマンドの出力に表示されます。

## 例

次の例では、FCS エラー ヒステリシスを 5% に設定する方法を示します。ビット エラー レートが設定した FCS ビットエラー レートを 5% 超過するとアラームが発生します。

```
Switch(config)# alarm facility fcs-hysteresis 5
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">fcs-threshold</a>	インターフェイスの FCS エラー レートを設定します。
<a href="#">show running-config</a>	FCS ヒステリシスしきい値 (デフォルト値以外の場合) を含むスイッチの実行コンフィギュレーションを表示します。構文情報については、『Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference for Release 12.1』 > 「Cisco IOS File Management Commands」 > 「Configuration File Commands」を参照してください。

# alarm facility power-supply

システムがデュアル電源モードで稼働している場合に、電源の欠落または障害を検出するアラーム オプションを設定するには、**alarm facility power-supply** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。指定した設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**alarm facility power-supply {notifies | relay {major | minor} | syslog}**

**no alarm facility power-supply {notifies | relay {major | minor} | syslog}**

## 構文の説明

<b>notifies</b>	電源装置アラーム トラップを簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) サーバに送信します。
<b>relay major</b>	アラームがメジャー リレー回路に送信されます。
<b>relay minor</b>	アラームがマイナー リレー回路に送信されます。
<b>syslog</b>	電源装置アラーム トラップを Syslog サーバに送信します。

## デフォルト

電源アラーム メッセージは保存されますが、SNMP サーバ、リレー、または syslog サーバに送信されません。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

電源アラームは、システムがデュアル電源モードの場合にのみ生成されます。2 つ目の電源が接続された場合、**power-supply dual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してデュアル電源モードの動作を設定します。

**notifies** キーワードを使用してアラーム トラップを SNMP ホストに送信する前に、**snmp-server enable traps** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して SNMP サーバを設定してください。

## 例

次の例では、電源モニタリング アラームをマイナー リレー回路に送信する設定方法を示します。

```
Switch(config)# alarm facility power-supply relay minor
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">power-supply dual</a>	スイッチの動作をデュアル電源モードに設定します。
<a href="#">show alarm settings</a>	環境アラーム設定およびオプションが表示されます。
<a href="#">snmp-server enable traps</a>	スイッチでさまざまなトラップ タイプ SNMP 通知を Network Management System (NMS; ネットワーク管理システム) に送信します。

■ alarm facility power-supply

# alarm facility temperature

プライマリ温度モニタリングアラームの設定または上限値が低いセカンダリ温度アラームしきい値を設定するには、**alarm facility temperature** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。温度モニタリングアラームの設定を削除またはセカンダリ温度アラームをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
alarm facility temperature {primary {notifies | relay {major | minor} | syslog} |
secondary {threshold | notifies | relay {major | minor} | syslog}}
```

```
no alarm facility temperature {primary {notifies | relay {major | minor} | syslog} |
secondary {threshold | notifies | relay {major | minor} | syslog}}
```

## 構文の説明

threshold	セカンダリ温度アラームに対し、°C で下限温度しきい値を設定します。使用可能な範囲は 40 ~ 95 °C です。
notifies	プライマリまたはセカンダリ温度アラーム トラップを簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) サーバに送信します。
relay major	プライマリ温度アラームまたはセカンダリ温度アラームがメジャー リレー回路に送信されます。
relay minor	プライマリ温度アラームまたはセカンダリ温度アラームがマイナー リレー回路に送信されます。
syslog	プライマリ温度アラーム トラップまたはセカンダリ温度アラーム トラップを Syslog サーバに送信します。

## デフォルト

プライマリ温度アラームは -20 ~ 95 °C の範囲でイネーブルになり、これを削除することはできません。アラームはメジャー リレーに関連付けられています。セカンダリ温度アラームはデフォルトでディセーブルになっています。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

プライマリ温度アラームは自動的にイネーブルになります。アラームはディセーブルにできませんが、アラーム オプションを設定できます。

セカンダリ温度アラームを使用し、最高プライマリ温度しきい値 (95 °C) より低い温度で高温アラームを発生させることができます。温度しきい値とアラーム オプションを設定できます。

**notifies** キーワードを使用してアラーム トラップを SNMP ホストに送信する前に、**snmp-server enable traps** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して SNMP サーバを設定してください。

**例**

次の例では、セカンダリ温度の高温しきい値に 45 °C とアラームを設定し、トラップをマイナー リレー回路、syslog、および SNMP サーバに送信する方法を示します。

```
Switch(config)# alarm facility temperature secondary 45
Switch(config)# alarm facility temperature secondary relay minor
Switch(config)# alarm facility temperature secondary syslog
Switch(config)# alarm facility temperature secondary notifies
```

次の例では、セカンダリ温度アラームをディセーブルにする方法を示します。

```
Switch(config)# no alarm facility temperature secondary 45
```

次の例では、プライマリ温度アラームを設定し、syslog とメジャー リレー回路にアラームとトラップを送信する方法を示します。

```
Switch(config)# alarm facility temperature primary syslog
Switch(config)# alarm facility temperature primary relay major
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">show alarm settings</a>	環境アラーム設定およびオプションが表示されます。
<a href="#">snmp-server enable traps</a>	スイッチでさまざまなトラップ タイプ SNMP 通知を Network Management System (NMS; ネットワーク管理システム) に送信します。

# alarm profile (グローバル コンフィギュレーション)

アラーム プロファイルを作成し、アラーム プロファイル コンフィギュレーション モードを開始するには、**alarm profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。アラーム プロファイル を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**alarm profile** *name*

**no alarm profile** *name*

## 構文の説明

name	アラームのプロファイル名です。
------	-----------------

## デフォルト

アラーム プロファイルは作成されません。  
プロファイルを作成しても、アラームは1つもイネーブルになりません。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

アラームプロファイル コンフィギュレーション モードでは、次のコマンドが使用できます。

- **alarm** *alarm-id* : 特定のアラームがイネーブルになります。
- **exit** : アラームプロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
- **help** : インタラクティブ ヘルプ システムの説明が表示されます。
- **no** : コマンドを無効にするか、デフォルトに設定します。
- **notifies** *alarm-id* : アラームの通知がイネーブルになり、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップが SNMP サーバに送信されます。
- **relay-major** *alarm-id* : アラームがメジャー リレー回路に送信されます。
- **relay-minor** *alarm-id* : アラームがマイナー リレー回路に送信されます。
- **syslog** *alarm-id* : アラームが syslog ファイルに送信されます。

*alarm-id* には、アラーム ID を 1 つまたはスペースで区切って複数入力します。

キーワード **notifies** を使用してアラーム トラップを SNMP ホストに送信する前に、**snmp-server enable traps** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して SNMP サーバを設定してください。

表 A-1 に、アラーム ID と、対応するアラームの説明を示します。

表 A-1 AlarmList ID 番号とアラームの説明

AlarmList ID	アラームの説明
1	リンク障害
2	ポートが転送を行っていません
3	ポートが動作していません
4	FCS エラー レートがしきい値を超過しています

アラーム プロファイルを作成すると、**alarm-profile** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、プロファイルをインターフェイスに関連付けられます。

デフォルトでは、**defaultPort** プロファイルはすべてのインターフェイスに適用されます。このプロファイルによって、ポートが動作していない (3) アラームのみがイネーブルになります。このプロファイルは、**alarm profile defaultPort** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用し、アラーム プロファイル コンフィギュレーション モードを開始して変更できます。

## 例

次の例では、ポートのリンク障害 (アラーム 1) とポートでフォワーディングされない (アラーム 2) アラームがイネーブルのアラーム プロファイル *fastE* を作成する方法を示します。リンク障害アラームはマイナー リレー回路に関連付けられており、ポートでフォワーディングされないアラームはメジャーリレー回路に関連付けられています。このアラームは SNMP サーバに送信され、システム ログファイル (syslog) に書き込まれます。

```
Switch(config)# alarm profile fastE
Switch(config-alarm-prof)# alarm 1 2
Switch(config-alarm-prof)# relay major 2
Switch(config-alarm-prof)# relay minor 1
Switch(config-alarm-prof)# notifies 1 2
Switch(config-alarm-prof)# syslog 1 2
```

次の例では、*my-profile* という名前のアラーム リレー プロファイルを削除する方法を示します。

```
Switch(config)# no alarm profile my-profile
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>alarm profile</b> (インターフェイス コンフィギュレーション)	インターフェイスにアラーム プロファイルを関連付けます。
<b>show alarm profile</b>	アラーム プロファイルすべてまたは指定したアラーム プロファイルを表示し、それぞれのプロファイルが関連付けられているインターフェイスをリスト表示します。
<b>snmp-server enable traps</b>	スイッチでさまざまなトラップタイプ SNMP 通知を Network Management System (NMS; ネットワーク管理システム) に送信します。



# alarm profile (インターフェイス コンフィギュレーション)

アラーム プロファイルをポートに関連付けるには、**alarm profile** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。ポートからプロファイルの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**alarm profile name**

**no alarm profile**

## 構文の説明

name	アラームのプロファイル名です。
------	-----------------

## デフォルト

アラーム プロファイル *defaultPort* がすべてのインターフェイスに適用されています。このプロファイルでは、ポートが動作していないアラームのみがイネーブルです。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

アラーム プロファイルを作成して、アラームを 1 つ以上イネーブルにし、アラーム オプションを指定するには、**alarm profile** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

インターフェイスに関連付けられるアラーム プロファイルは 1 つのみです。

アラーム プロファイルをインターフェイスに関連付けると、すでに関連付けられていたアラーム プロファイルは上書きされます (*defaultPort* プロファイルを含む)。

## 例

次の例では、ポートにアラーム プロファイル *fastE* を関連付ける方法を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet0/2
Switch(config-if)# alarm profile fastE
```

次の例では、ポートからアラーム プロファイルの関連付けを解除して、*defaultPort* プロファイルに戻す方法を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet0/2
Switch(config-if)# no alarm profile
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>alarm profile</b> (グローバル コンフィギュレーション)	アラーム プロファイルを作成および指定して、アラームプロファイル コンフィギュレーション モードが開始されます。
<b>show alarm profile</b>	アラーム プロファイルすべてまたは指定したアラーム プロファイルを表示し、それぞれのプロファイルが関連付けられているインターフェイスをリスト表示します。

# fcs-threshold

フレーム チェック シーケンス (FCS) ビットエラー レートを設定するには、**fcs-threshold** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルト設定に戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**fcs-threshold value**

**no fcs-threshold value**

## 構文の説明

value	値範囲は 6 ~ 11 で、 $10^{-6}$ ~ $10^{-11}$ ビット エラー レートを示します。
-------	---

## デフォルト

デフォルトは 8 です。これは、イーサネット標準の  $10^{-8}$  ビット エラー レートを示します。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

イーサネット標準の上限ビット エラー レートは  $10^{-8}$  です。Catalyst 2955 スイッチで設定可能なビット エラー レートの範囲は  $10^{-6}$  ~  $10^{-11}$  です。ビット エラー レートをスイッチに入力するには、正の指数を使用します。ビット エラー レートに  $10^{-9}$  を設定する場合は、係数に 9 を入力します。

スイッチに FCS エラー ヒステリシスしきい値を設定して、実際のビット エラー レートの変動が設定したビット エラー レートに接近すると切り替わるアラームを防止するには、**alarm facility fcs hysteresis** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

## 例

次の例では、ポートの FCS ビット エラー レートを  $10^{-10}$  に設定する方法を示します。

```
Switch(config)# interface fastethernet0/1
Switch(config-if)# fcs-threshold 10
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>alarm facility fcs-hysteresis</b>	スイッチの FCS ヒステリシスしきい値をポートに設定された FCS ビット エラー レートの許容変動率で設定します。
<b>show fcs-threshold</b>	インターフェイスそれぞれの FCS エラー ビット レート設定を正数の係数として表示します。

# power-supply dual

デュアル電源モードを設定するには、**power-supply dual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルトのシングル電源モードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**power-supply dual**

**no power-supply dual**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトでは、システムはシングル電源モードで稼働しています。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Catalyst 2955 スイッチには DC 電源入力が 2 つあります。スイッチが 2 つ目の DC 入力に接続されデュアル電源モードに変更された状態で、プライマリ電源で障害が発生すると、2 つ目の電源からスイッチに電力が供給されます。

スイッチがデュアル電源モードの場合は、**alarm-facility power supply** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してアラーム オプションを設定し、検出できないプライマリ電源装置または障害が発生したプライマリ電源装置をモニタできます。

## 例

次の例では、スイッチをデュアル電源モードに設定する方法を示します。

```
Switch(config)# power-supply dual
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">alarm facility power-supply</a>	スイッチで電源の欠落または障害をモニタし、アラーム オプションを設定します。
<a href="#">show alarm settings</a>	環境アラーム設定およびオプションが表示されます。

# show alarm description port

テキストの説明とアラーム番号を表示するには、**show alarm description port** ユーザ EXEC コマンドを使用します。

```
show alarm description port [ | {begin | exclude | include} expression]
```

## 構文の説明

<b>begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を表示から除外します。
<b>include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示に含めます。
<i>expression</i>	参照ポイントとして使用する出力内の文字列です。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

文字列では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、| **exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次の例では、**show alarm description port** コマンドの出力を示します。出力では、アラーム ID とそれぞれに対応するアラームの説明を示します。

```
Switch> show alarm description port
1      Link Fault
2      Port Not Forwarding
3      Port Not Operating
4      FCS Error Rate exceeds threshold
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>alarm profile</b> (グローバル コンフィギュレーション)	アラーム ID およびアラーム オプションが 1 つ以上含まれるアラーム プロファイルを作成します。
<b>show alarm profile</b>	アラーム プロファイルすべてまたは指定したアラーム プロファイルを表示し、それぞれのプロファイルが関連付けられているインターフェイスをリスト表示します。

# show alarm profile

システムに設定されたアラーム プロファイルすべて、または指定されたプロファイルとプロファイルが関連付けられたインターフェイスを表示するには、**show alarm profile** ユーザ EXEC コマンドを使用します。

```
show alarm profile [name] [ | {begin | exclude | include} expression]
```

## 構文の説明

<b>name</b>	(任意) 指定された名前プロファイルのみを表示します。
<b>  begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>  exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を表示から除外します。
<b>  include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示に含めます。
<b>expression</b>	参照ポイントとして使用する出力内の文字列です。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

プロファイルの *name* を入力しない場合、すべての既存のアラーム プロファイルの情報が表示されません。

デフォルトでは、*defaultPort* プロファイルはすべてのインターフェイスに適用されています。このプロファイルによって、ポートが動作していない (3) アラームのみがイネーブルになります。このプロファイルを変更して他のアラームをイネーブルにするには、**alarm profile defaultPort** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

文字列では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、**| exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次の例では、**show alarm profile** コマンドの出力を示します。例では、設定されたプロファイルが適用されたすべてのポートを表示し、プロファイルのアラーム オプションを定義しています。

```
Switch> show alarm profile
```

```
alarm profile defaultPort:
```

```
Interfaces      FastEthernet0/2 FastEthernet0/3 FastEthernet0/4 FastEthernet0/5
FastEthernet0/6 FastEthernet0/7 FastEthernet0/8 FastEthernet0/9 FastEthernet0/10
FastEthernet0/11 FastEthernet0/12 GigabitEthernet0/1 GigabitEthernet0/2
Alarms          3
Syslog          3, 4
Notifies        3
Relay Major     1, 2
Relay Minor     1, 4
```

```

alarm profile teresa:

  Interfaces      FastEthernet0/1
  Alarms          1, 2, 3, 4
  Syslog          2, 3, 4
  Notifies
  Relay Major     1
  Relay Minor

alarm profile test-profile:

  Interfaces
  Alarms
  Syslog
  Notifies
  Relay Major
  Relay Minor

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">alarm profile (グローバル コンフィギュレーション)</a>	アラーム ID およびアラーム オプションが 1 つ以上含まれるアラーム プロファイルを作成します。
<a href="#">alarm profile (インターフェ イス コンフィギュレーショ ン)</a>	インターフェイスにアラーム プロファイルを関連付けます。

# show alarm settings

スイッチの環境アラーム設定すべてを表示するには、**show alarm settings** ユーザ EXEC コマンドを使用します。

**show alarm settings** [ | {**begin** | **exclude** | **include**} *expression*]

## 構文の説明

<b>begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を表示から除外します。
<b>include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示に含めます。
<i>expression</i>	参照ポイントとして使用する出力内の文字列です。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

文字列では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、| **exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次の例では、**show alarm settings** コマンドの出力を示します。出力では、スイッチ上のスイッチアラーム設定すべてが表示されます。

```
Switch> show alarm settings
Power Supply
  Mode                Single
  Alarm               Disabled
  Relay               MIN
  Notifies            Disabled
  Syslog              Disabled
Temperature-Primary
  Alarm               Enabled
  Thresholds          MAX: 95C          MIN: -20C
  Relay               MAJ
  Notifies            Enabled
  Syslog              Enabled
Temperature-Secondary
  Alarm               Disabled
  Threshold
  Relay
  Notifies            Disabled
  Syslog              Disabled
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">alarm facility power-supply</a>	電源アラーム オプションを設定します。
<a href="#">alarm facility temperature</a>	温度アラーム オプションを設定します。
<a href="#">power-supply dual</a>	デュアル電源モードを設定します。

# show env

Catalyst 2955 スイッチ上の環境ファシリティのステータスを表示するには、**show env** 特権 EXEC コマンドを使用します。

```
show env {all | power | temperature} [ | {begin | exclude | include} expression]
```



(注)

このコマンドは、Catalyst 2950 のプラットフォームでは異なるキーワードでサポートされています。

## 構文の説明

<b>all</b>	電源装置および温度の環境ステータスを表示します。
<b>power</b>	電源装置の環境ステータスを表示します。
<b>temperature</b>	温度の環境ステータスを表示します。
<b>begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を表示から除外します。
<b>include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示に含めます。
<i>expression</i>	参照ポイントとして使用する出力内の文字列です。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.0(5.2)WC(1)	このコマンドが追加されました。
12.1(12c)EA1	<b>power</b> キーワードおよび <b>temperature</b> キーワードが追加されました。

## 使用上のガイドライン

文字列では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、| **exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次の例では、**show env power** コマンドの出力を示します。スイッチ上のすべての電源装置のステータスが表示されます。

```
Switch# show env power
Power supply A is present
Power supply B is present
```

次の例では、**show env temperature** コマンドの出力を示します。スイッチの温度ステータスが表示されます。

```
Switch# show env temperature
Current temperature is 49C
Highest temperature was 53C Mar 04 1993 04:06:36
```

次の例では、**show env all** コマンドの出力を示します。スイッチ上のすべての環境ファシリティのステータス（電源装置および温度）が表示されます。

```
Switch# show env all
Power supply A is present
Power supply B is present
Current temperature is 49C
Highest temperature was 53C Mar 04 1993 04:06:36
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">power-supply dual</a>	スイッチ上でデュアル電源モードを設定します。

# show facility-alarm relay

指定されたリレー回路に関連付けられたファシリティ アラームを表示するには、**show facility-alarm relay** ユーザ EXEC コマンドを使用します。

```
show facility-alarm relay {major | minor} [| {begin | exclude | include} expression]
```

## 構文の説明

<b>major</b>	メジャー リレーに関連付けられたアラームを表示します。
<b>minor</b>	マイナー リレーに関連付けられたアラームを表示します。
<b>  begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>  exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を表示から除外します。
<b>  include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示に含めます。
<i>expression</i>	参照ポイントとして使用する出力内の文字列です。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

文字列では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、**| exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次の例では、**show facility-alarm relay minor** コマンドの出力を示します。マイナー リレーのアラーム情報が表示されます。

```
Switch> show facility-alarm relay minor
Source          Description          Relay    Time
Switch         1 Temp above secondary thresh  MIN      Mar 01 1993 00:0 1:17
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">alarm facility power-supply</a>	電源アラーム オプションを設定します。
<a href="#">alarm facility temperature</a>	温度アラーム オプションを設定します。
<a href="#">alarm profile (グローバル コンフィギュレーション)</a>	インターフェイスに関連付けるアラーム ID とアラーム オプションが割り当てられたアラーム プロファイルを作成します。
<a href="#">show facility-alarm status</a>	スイッチで生成されたアラームを表示します。

# show facility-alarm status

スイッチで生成されたアラームをすべて表示するには、**show facility-alarm status** ユーザ EXEC コマンドを使用します。

```
show facility-alarm status [critical | info | major | minor] [ | {begin | exclude | include}
expression]
```

## 構文の説明

critical	(任意) クリティカルなファシリティ アラームのみを表示します。
info	(任意) ファシリティ アラームをすべて表示します。
major	(任意) 主要なファシリティ アラーム以上をすべて表示します。
minor	(任意) 主要なファシリティ アラーム以上をすべて表示します。
begin	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
exclude	(任意) <i>expression</i> と一致する行を表示から除外します。
include	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示に含めます。
<i>expression</i>	参照ポイントとして使用する出力内の文字列です。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

文字列では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、**| exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次の例では、**show facility-alarm status** コマンドの出力を示します。スイッチのアラーム情報を表示します。

```
Switch> show facility-alarm status
Source          Severity Description          Relay    Time
FastEthernet0/3  MINOR    2 Port Not Forwarding  NONE    Mar 01
1993 00:02:22
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">alarm facility power-supply</a>	電源アラーム オプションを設定します。
<a href="#">alarm facility temperature</a>	温度アラーム オプションを設定します。
<a href="#">alarm profile (グローバル コンフィギュレーション)</a>	インターフェイスに関連付けるアラーム ID とアラーム オプションが割り当てられたアラーム プロファイルを作成します。
<a href="#">show facility-alarm relay</a>	スイッチで生成されたアラーム リレーを表示します。

# show fcs-threshold

スイッチ インターフェイスのフレーム チェック シーケンス (FCS) ビット エラー レート設定を表示するには、**show fcs-threshold** ユーザ EXEC コマンドを使用します。

```
show fcs-threshold [ | {begin | exclude | include} expression ]
```

## 構文の説明

<b>begin</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行から表示を開始します。
<b>exclude</b>	(任意) <i>expression</i> と一致する行を表示から除外します。
<b>include</b>	(任意) 指定された <i>expression</i> と一致する行を表示に含めます。
<i>expression</i>	参照ポイントとして使用する出力内の文字列です。

## コマンドモード

ユーザ EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

イーサネット標準の上限ビット エラー レートは  $10^{-8}$  です。Catalyst 2955 スイッチで設定可能なビット エラー レートの範囲は  $10^{-6} \sim 10^{-11}$  です。ビット エラー レートをスイッチに入力するには、正の指数を使用します。出力では正の指数が表示されます。9 と出力された場合、ビット エラー レートは  $10^{-9}$  です。

文字列では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、| **exclude output** と入力した場合、*output* を含む行は表示されませんが、*Output* を含む行は表示されます。

## 例

次の例では、**show fcs-threshold** コマンドの出力を示します。ここでは、ポートがすべてデフォルトの FCS しきい値に設定された出力を示します。

```
Switch# show fcs-threshold
Port      FCS Threshold
Fa0/1      8
Fa0/2      8
Fa0/3      8
Fa0/4      8
Fa0/5      8
Fa0/6      8
Fa0/7      8
Fa0/8      8
Fa0/9      8

<output truncated>
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>fcs-threshold</b>	インターフェイスで FCS しきい値を設定します。

# test relay

リレー回路をオンまたはオフにするには、**test relay** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**test relay {major | minor} {on| off}**



## 注意

**test** コマンドを使用するとリレーのステート（オンまたはオフ）が変更されます。変更前のステートは保存されません。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
12.1(12c)EA1	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

アラート デバイスへのリレー回路接続を確認するには、**test relay** 特権 EXEC コマンドを使用します。このコマンドを使用することで、アラーム条件を作成せずにアラーム スキャナをテストできます。

## 例

次の例では、メジャー リレー回路をオンにする方法を示します。

```
Switch# test relay major on
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show alarm profile</a>	アラーム プロファイルすべてまたは指定したアラーム プロファイルを表示し、それぞれのプロファイルが関連付けられているインターフェイスをリスト表示します。
<a href="#">show alarm settings</a>	環境アラーム設定およびオプションが表示されます。
<a href="#">show facility-alarm relay</a>	スイッチで生成されたアラーム リレーを表示します。

■ test relay